

情報社会における授業開発の理論と実践

——自己創出システム論によるアプローチ——

Theory and Practice of Class Development in the Information Society

嘉味田 朝 功*

Choko KAMITA

はじめに

本稿は、平成7年度から全学的に導入された新カリキュラムの中の、経営情報学部新一年生の必須科目「経営情報学入門」の企画・実施過程を、「自己創出システム」理論を参照枠組みとしてまとめたものである。第1部では自己創出システム理論を念頭に、広く、教育に関わる社会的背景や、授業をめぐる諸問題を論じ、第2部では、自己創出システム理論をベースに企画・実施した新科目の内容について述べ、第3部では実施に当たって使用した資料類を収録してある。資料は平成8年度分（5月半ばまで）を先に7年度分を後にしてある。

第1部 授業開発をめぐる理論

1. 問題意識

生産者主導の工業社会が終わり、生活者優位の情報社会が始まった。工業社会を立ち上げ、発展させ、維持してきた諸制度がその有効性を失っている。そして多くの人々は、生活を営む上で不満と不安を抱いている。今各方面で、情報社会を立ち上げ、発展させる新たな諸制度の導入が求められている。政治・経済、文化・社

会の制度・意識・習慣の変更が必要なのである。かつてペーコンは、農業社会から工業社会への移行に当たって、人々に現実と意識とのズレを気づかそうとして、4つのイドラ（幻像）という言葉を示した。現在に置き換えてみると、こんな解釈ができるかもしれない。

①（政治）種族のイドラ：地球の情報基盤を牽引するわれらアメリカ人が考える「コード」が世界中から受入れられてしかるべきである。
②（経済）市場のイドラ：狭い日本の国土で、土地の価格が下がるはずがない。
③（文化＝学校）劇場のイドラ：教授が精根こめて獲得した体系的知識の伝達に、学生も精神を集中して理解に努力すべきである。
④（社会＝家庭）洞窟のイドラ：子供が勉強していい学校に入れば、卒業していい会社にいけて将来は安定するはずである。

農業社会から工業社会への移行は、ともに「物」を扱う、「見えるもの」の世界での変化であった。ところが、工業社会から情報社会への移行では、見える「物」と見えない「心」の価値が逆転する。先に見えない「情報・知識」があつて後から見える「物質・エネルギー」がついてくる。すなわち、現象としての経験的「観察」にかかる前に、「表象」操作を通じて「心的」に「思考」体験できるのである。「未来」が「現在」に入り込んでいる。そこでは、コンピュー

* 経営情報学科—行動科学

タネットワークが作り出す電子「人工」空間が人間相互行為が生み出す「自然」物理空間より社会的影響力に於て優位に立つ。こうしてイドラ（幻のイメージ）と現実のイメージとの境界があいまいになる。そして、その「あいまいさ」の中に、危険と機会が同居している。

情報社会の経済の動きは、情報創造の質を基準にした「付加価値性原理」に基づく。これは、エネルギー消費の量を基準にした「生産性原理」とは本質的に異なる。生産性へではなく（これは機械がやる）、付加価値性へ貢献できる能力を持った人間が優位に立つことになる。諸制度も文化も技術も、こうした流れに即するような方向に改革されたとき、人々は住みよい環境を手に行ける。

2. 学問、教育分野の新しい動き

学問、教育の分野で抜本的な改革へ向けて種々の努力が進行中である。

東京大学教養学部では、新時代にふさわしい「知」に関する3部作、①「知の技法」②「知の論理」③「知のモラル」が、文科系1年生の必須科目「基礎演習」のためのサブテキストとして出版された。

慶応義塾大学藤沢キャンパスでは、「環境情報社会の近未来シナリオ」として次の10巻を刊行中である。I. インフォスケープ（総論）「知の構築とその展開」II. テクノスケープ（技術分野の近未来）「サイエンスの近未来」、「テクノスケープ」、「地理情報科学の新展開」III. ソシオスケープ（社会分野）「デジタルアンビエンス」、「知的キャンパスのプランニング」IV. ヒューマンスケープ（人間分野）「ヒューマンスケープ」、「メディアエイジの精神分析」、「未来

からの留学生」V. ナチュラルスケープ（自然環境分野）「ナチュラルスケープ」。

別の研究グループによる、「シリーズ・社会科学のフロンティア」12巻の刊行も始まった。この書は、マルチメディア時代の研究として、文科系と理科系の従来からのタテ割りの研究をネットワーク的に融合することへの挑戦である。社会や組織を、自律主体エージェントのネットワークである「複雑多主体システム」、すなわち「ポリエージェントシステム」ととらえて以下のように展開する。①マルチメディア時代の人間と社会。②ネットワークリーダーシップ。③科学技術の社会変容。④新しい産業社会と社会システム。⑤コーポレートアクター。⑥複雑系としての経済学。⑦交渉とアコモデーション。⑧ゲーミングシミュレーション。⑨人工社会。⑩人工知能でみる組織行動。⑪アニマト組織論。⑫マルチメディア社会システムの諸相。

3. 教育制度と学校組織、授業の役割

一国の諸制度は、その時点での、社会要請と個人欲求の両方に応えないと機能しない。教育制度にも当てはまる。教育機能の実現を期待されてつくられたのが学校組織であり、その役割を具体的に果たすのが「授業」である。社会要請は教育理念に反映され、学校文化に具体化されなければならない。また、個人欲求は授業共同体に組み込まれ、授業行動の中に具現化されなければならない。一方、社会要請と個人欲求の重なる所に教育目標が設定され、その達成度評価に応じて、授業共同体によって、学校文化と授業行動をつなぐ組織学習が行われなければならない。

	教育 理念	
教育 目的		組織 学習
	授業 共同体	

社会 要請		学校 文化
	学校 組織	
個人 欲求		授業 行動

極東の島国で、西欧発祥の工業化を成し遂げた今日の日本における社会要請の最重要課題は「情報化」と「国際化」である。中部大学に経営情報学部と国際関係学部が発足したのは、その流れに沿っている。また一般的な個人欲求の最重要課題は「個性化」(＝選択性＝自己決定)である。この流れに沿って文部省の指導方針は大綱化と個性化と自己責任を目指している。これからの授業方策は、こうした環境情報の認識のもとに構想されなければならない。

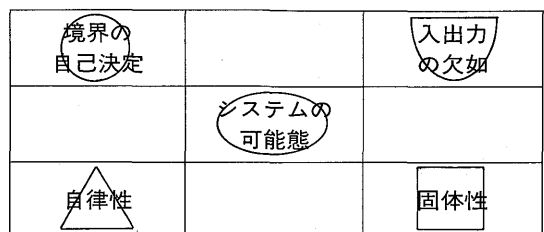
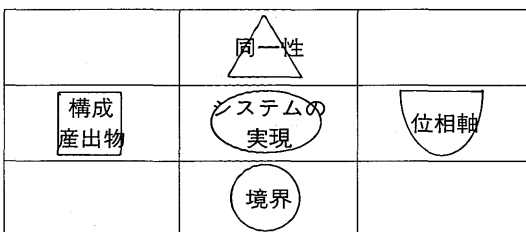
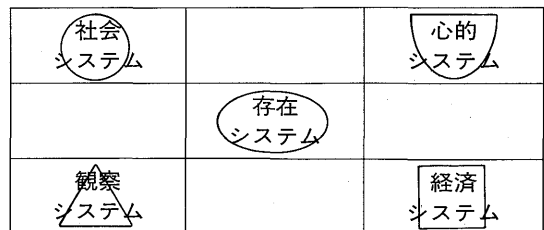
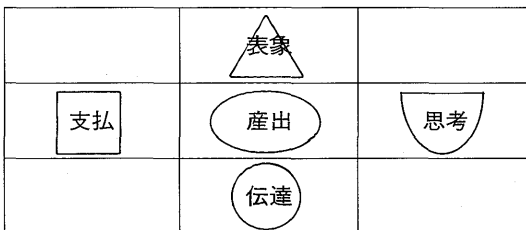
一方、こうした「情報化」、「国際化」、「個性化」の流れを技術的側面から支援してくれるのが、デジタル技術の開発による、低価格のマルチメディア型パーソナルコンピュータの出現と、人工衛星と光ファイバー網を通して地球全域でそれらの接続を可能にした「インターネット」の出現である。個人の自由意思を出発点にした地球規模での感性共同体の形成が容易に実現できるようになった。

トフラーの予言通り、世界を動かすパワーは、①暴力(政治＝国家)→②富(経済＝企業)→③知識(文化＝個人)へと移行している。今、国民の文化の質が問われている。そして国民の文化の質は、その国の家庭教育、学校教育、社会教育の質的水準にかかっている。これからの授業構想は、こうした環境情報も視野にいれなければならない。

4. 自己創出システムモデル

社会の情報化がもたらす特徴は、①空間的な多様性(固有環境)、②時間的な同時性(リアルタイム＝オンライン)、③人間的な選択性(個性)である。これに④物語性(固有の歴史)と⑤手続性(共有のコード)が加わる。すなわち、各人は自己の意思を選択するに当たって、自己の固有環境情報を処理して、同時に他の人々と関係を結びながら、固有の自分史を紡いでいくことができるのである。言葉を変え、情報技術革命による社会全体の生産性向上のおかげで、人々は、経済的脅威を過度に意識せずに、「自分が生きたいように生きられる」という、誰もが願う夢がかなえられる可能性を手にしたのである。

このことと平行して、地球規模の情報化によって、否応なく国際化が進み、国ももろもろの組織も、他国や他組織との抜き差しならぬ関係なしには存続できなくなった。そして、国、組織、個人ともども、選択の誤りは大きな痛手をもたらすことになる。こうして物事の複雑性の増幅により、いかなる学問も専門分野単独で研究することは不可能になった。そしてあらゆる側面で新しい発想が要求される。こうした極度に複雑な事態に対応するための思考のガイドとして役立つのが自己創出システム理論である。



この理論は、これまでの通常の経験科学とは質を異にし、現れた現象間の関係を観測し、分類・整理し、定式化を行うのではなく、システムを「産出プロセスのネットワーク」として捉え、現象の発生・消滅のメカニズムそのものを中心に理論を展開する。すなわち、「心的システム」が観察者の立場からではなく、システム自身の立場から自己を「観察」して「表象」を産出し、これを媒介にして「思考」が産出されたとき、「自己言及」のメカニズムによって時間意識と自己意識が発生する。こうして観察者としての人間はシステムの外部環境に追いやられてしまう。この「思考された表象」が他者に「伝達」された時、「相互浸透」のメカニズムによって「社会システム」が発生し、このシステムは「支払」(エネルギーの備給)が続く限りにおいて「経済システム」と相互浸透して現実世界に存続することになる。

この理論モデルを授業場面に当てはめると、教授も学生の一人一人も自己創出システムで、それぞれに自律性を持った「観察システム」として、誰と「社会システム」を作るかその境界は各自の「心的システム」によって産出された「思考」がどんな「表象」を誰に「伝達」するかによって決まる。つまり、講義をするのも聴くのも私語するのも、各自がその時、その場で自己決定するわけである。学生たちと教授が、教室内という物理的境界の中で過ごす間中ずっと、授業共同体に対する「帰属意識」を確保するには、各自の「支払」に見合った価値創造(構成産出物)が行われ続けなければならないことになる。このことは、受験予備校でならともかく、今日の大衆化された大学教育では、これまでのように黒板とチョークを使った、教授による一方的に知識を伝達するという講義形式では、どんなに話芸に優れていても、達成不可能であろう。強力な統制による画一的な大量生産方式に絶対的な価値があった工業社会の文化的背景が消滅して、多様性、同時性、選択性を特徴とする情報社会の中での一般の大学教育では、大教室における多人数に対する講義方式は機能で

きないのである。

5. 多人数授業方式の脱構築

過去十数年間、講義方式に代えて、多人数でも効果を発揮できる授業方法を開発し実施し、学生による授業評価によって有効性を確認してきた。最近になって、この方法が自己創出システム理論に合致していることが分かった。以下の6つのテップからなるインタラクティブ方式である。

1. テキストの提示

テキストと併せて、課題シートも配付する。課題シートには次のようなインストラクションが書かれてある。

課題：テキストを読みながら、以下の質問の答えに該当する文の所に下線を引き、その行の左端の欄外に質問番号を書き込みなさい。答えが複数項目ある時は、文中の項目の頭に①②・と書き込みなさい。

(ビデオの時は、課題シートに書かれた質問項目を念頭において、考えながら観るように指示する。)

言語表象からの情報の読み取りはスピードに個人差がある。事前に課題として渡しておく、各自のペースで読むことができる。教授が伝えたい重要な概念を、質問に答える形で注意深く探索するので、記憶に残りやすい。また、「観察」経験が伴わない「表象」でも、「心的システム」を働かせて「思考」を産出することができる。

2. 課題の点検

授業では、質問番号と下線を引いた正解をOHPに映しながら、質問文と答えの文を読み上げる。

3. 理解度テスト

テストは10問乃至20問の○×式で、10分前後で個人回答欄に印をつけてもらう。

これは、「自己言及」と「相互浸透」のメカニズムを伴う、学生と教授の「伝達」を通じての「社会システム」の創出を意図したものである。教授の「心的システム」による「思考」された「表象」が、学生それぞれの「心的システム」による「思考」とインタラクションし、双方の「観察」経験の一致が照合されるのである。ここで学生の「観察」経験とは、自分の過去の「観察」経験の「表象」との一致ではなく、教授によってテキストに表示されていた「表象」と一致しているかどうか問われているのである。つまり教授（あるいは著者）が言わんとしたことを正しく受け取ったかどうかのテストである。

4. ペアによる点検

ここでは、テキストの言語「表象」に対するそれぞれの「心的システム」の「思考」的「観察」経験を交換するという「伝達」によって、「自己言及」と「相互浸透」のメカニズムが働き、教授とペアの学生の3人からなる「社会システム」が発生するのである。

なお、ペアの統一見解は、個人回答はそのまま残して、ペア解答欄に書く。

5. 正解と解説

このステップは、教授から学生への全身による「伝達」によって、全学生プラス教授で構成される授業共同体という「社会システム」を創出する場である。正解の発表に先立って、各自の正解数を推測して「予想」欄に記入してもらう。「自己言及」のメカニズムを作動させる小さな仕掛けの一つである。

「相互浸透」のメカニズムを作動させるもう一つの小さな仕掛けが、「挙手」による自己の相対的な位置の確認である。すなわち、一問毎に質問文を読み上げた後、「マルの人、手を挙げて下さい。」と言ってから正解を板書する。全

問済んでから、正解数を「実績」欄に記入し、何点から何点まで、と区切って挙手してもらう。

ここでの○×はあくまでテキストの「表象」に対するもので、そのコンテキスト（文脈）に沿った解説をする。各自の経験的に「思考」された「表象」との間にギャップがある場合には、「授業後感想記録」シートに書いてもらい、翌週補足する。

6. 理解度確認テスト

翌週開講一番、同じ問題（ただし、順序を変えてある）に対する答えを、マークシートに書き込み、提出してもらい、コンピューターで採点して、成績の一部にする。ほぼ全員が全問正解である。「感想記録」には、満点の喜びを書き記した者が多い。

こうした手順が繰り返されると、効率的でしかも自省的な教室文化（秩序）が生まれ、同時に伝達行動のスキルの向上も期待できる。

第2部 授業開発の実践

6. 「経営情報学入門」科目の導入

私大で最初に経営学部を新設した明治大学の経営学部では、平成8年度から経営文化コースを設け、経営管理コースと経営会計コースの3コースに進路を分けた。

私大で最初に大学院経営情報学研究科の博士課程を新設した多摩大学では、平成7年度から、学部1年生を100人ずつの3班に分けて、月、水、金の午前と午後、半年間かけて、「経営基礎」、「情報基礎」、「外国語基礎」の3教科を必修として、各班それぞれに一人のコーディネータと助手のもとに、専門過程の全専任教員（外国語は語学担当者）によって分担担当するカリキュラムを開始した。（火曜と木曜に選択科目をとる。）

カリキュラムの導入に当たっては、学部長命によって6人の若手教員（経営系、情報系各3

名) から成るプロジェクトチームが生まれ、研究結果を教授会に報告し、承認を得て実施に移された。高校卒業までの12年間、受験体制に組み込まれて学校生活を送ってきた新入生に対して、望ましい大学教育の達成へ向けて意識改革を実現するには、大学側のそれだけのエネルギーと集中的な時間の投入が必要であるとの、コンセンサスができたわけである。

前期の中間点でチェックポイントを設け、クリアできなければ、平行して再履修させ、それでもクリアできない人には、大学教育には向かないとみて、前期末に進路変更の指導をする、とのことである。

一方、中部大学では、平成8年度、大学院経営情報学研究科の発足に当たり、「経営情報学」独自の領域と研究方法の核づくりへ向けて、経済・経営・情報の相互研究会を開くとともに、院生のために、履修申告に先立って「オムニバス方式」の特別講義を設けて、経営系、情報系の全専任教員が順次、1コマを当て、それぞれに「現代経営」、「情報科学」との関連を踏まえて、担当科目の全体像を講義した。

学部の新入生に対しては、平成7年度、全学の新カリキュラムへの移行に当たって、「経営情報学入門」の科目が導入された。新科目の導入はスムーズではなかった。カリキュラム委員の提案に対して、学科教員会議は、その妥当性を認めず、継続審議ということになった。学部長と相談の上、経営情報学研究科設置準備委員会(6人)の主導によって初年度を立ち上げ、次年度以降半数が交替して、常時6人で継続的に改善を加えていくことで、次回の学科教員会議で承認を得た。

7. 授業構想

授業を自己創出システム論的に組み立てるには、心理的観察者としての教授自身あるいは学生たち自身の立場からではなく、授業目的共同体というシステム自身の立場に立って、「産出プロセスのネットワーク」を構築しなければならない。すなわち、気がついてみると、「自己言及」と「相互浸透」のメカニズムによって、“時間”

の進行とともに“自己意識”の中身に変化が生じ、自分たちみんなが授業行動に巻き込まれていた、という状態を創り出すことである。言葉をかえると、みんなが「面白くて、ためになる」と五感で感じて夢中になれるような授業をみんなで創り出せばよい。「花を咲かそうと思ったら、春を呼ばばよい」というのは、数学者岡潔の言葉である。教室にバーチャルな春を呼び込むのが教授の仕事とということになる。春とは一体どんな構造をしているのだろうか。その正体をあぶり出すには、次の質問が思考のガイドになる。

1. (社会要請)

社会(外部関係者全員)のどんな要請に応えるのか。

2. (個人欲求)

個人(学生・教職員全員)のどんな欲求をみたすのか。

3. (授業目的)

両方に対応するために、どんな目的をかけるか。

4. (教育理念)

目的を正当化するために、教育に関してどんな考え方が必要か。

5. (教室文化)

目的を実現するために、どんな教室文化を作って、

6. (授業方法)

どんな授業システムを組んで、

7. (授業行動)

どんな共同行動をすると、

8. (目的共同体)

内外関係者全員の支持が得られるか。

1. 外部関係者の社会的要請

・家族＝親(授業料を支払っている)――

4年で卒業していい所へ就職して欲しい

・会社(将来の雇用者)――

仕事のできる人物を育てて欲しい

・行政(国民の福祉向上が任務)――

新時代を切り開いていく人材を育てて欲しい

・大学＝他の教職員(共同者)――

大学の評判を高めてほしい

2. 学生・教職員の個人的欲求

- ・生理欲求 ――快適な物的環境
- ・安全欲求 ――不安なくやっていき
たい
- ・社会欲求 ――仲間と親しく付き合
っていききたい
- ・自我欲求 ――自分のことは、自分
で決めたい
- ・自己実現欲求――何かをやり遂げたい

3. この授業の目的

- ・有効な進路選択に役立つ環境情報の提供
- ・大学における学習効率を高めるのに役
立つ環境情報の提供
- ・快適な大学生活を送るのに役立つ環境
情報の提供

4. 教育理念

- ・建学の精神に則った授業
- ・授業は学生と教授の共同作業
- ・体験によって学習効果があがる

5. 教室文化

- ・授業に意識を集中している。
- ・発言すべき時はどンドンし、すべきで
ない時はしない。
- ・時間を無駄にせず、テキパキと行動する。

6. 授業システム

- ・一方的講義を極力減らす。(講義内容は
文字にして渡す)
- ・個人で考え、仲間と討議し、全体で相
互行為を起こす。
- ・視聴覚教材、ジャーナリズム情報など
を活用する。

7. 授業行動

- ・配付物の効率化のため、座席は番号順
に固定する。
- ・毎回授業後感想によるフィードバック
情報を活用する。
- ・遅刻者は名前を書いてから着席する。

8. 目的共同体

(内部関係者)

- ・全専任教員の授業紹介

・大学サービ機関の紹介(図書館, 学術
情報センター, 国際交流センター)

・先輩卒業生

授業評価

授業評価は、毎回の授業が終わった時点と、
期末に全授業が終わった時点で行われる。前者
には、毎回学生と教員の間を往復する「授業感
想記録」シートが使われる。「今日の授業が終わ
って感じたこと」という欄に、質問、要望、提
案など何でも自由に書いてもらう。3人の教員
が分担して読み、必要な事項は次回にフィード
バックする。

後者は、学生によるものと、担当教員による
ものがある。担当教員は、翌期の初めに集ま
って、振り返って感じたことを自由に話し合っ
て記録を残す。学生による評価は、大学共通の
マークシートを使うものと、独自の項目および
自由記述式を併用する。独自の項目とは、産業
界の組織開発向けに開発された職場診断用の項
目の要約を教室向けに読み替えたものである。

稿を閉じるに当たって、中部大学という「社
会システム」の「伝達」境界の内側で、私とい
う「心的・観察システム」によってこれまでに
「思考」された「表象」の幾つかをここに言語
化して残しておこう。

12年前、東京から春日井に赴任してきて、行
動科学の授業を持った時、私語の多さと勉強意
欲の低さに手をやいた。私と学生の間世代差
なのか、それとも知能差なのか。あるいは東京
と春日井の地域差なのか。人間行動の研究者の
メンツにかけて、あらん限りの知恵を総動員し
て、一応の期待水準にこぎ着けるのに3年かか
った。この間の悪戦苦闘の跡を紀要に書いて発
表したところ、教育関係の論文を永久保存する
仕事をしている協会から、収録してよいかとの
照会があり、承諾の返事を出した。臨時定員増
のあった年から再び思うように授業が運ばな
くなった。

数年前、同じく開設当初からの教授の退官最
終講義を聴講したとき、大講義室の中頃から後

ろにかけて、初めから終わりまで私語の連続であった。教授の方は、初めから終わりまで淡々と講義を続けていた。以前その先生に私語の問題を尋ねた時、「自分は気にしていない。バックグラウンド ミュージックのようなものだ。」と言ったのを思い出した。後任の先生から3分の1の学生を再履修として受け継がされたと聞いたとき、割り切れないものを感じた。

1年生の指導教授に当たった時、悪い習慣に染まらない前に、何とか前向きの勉強姿勢を根づかせたいと思い、恵那のオリエンテーションキャンプとPSHをドッキングして改革をもくろんで努力を試みたが、組織の慣習の壁に阻まれて、思うようにことが運ばなかった。そして、「あの先生、熱心なのはわかるが、浮いている。」との学生の言葉を同僚から聞かされて、PSHの継続を断念した。

バブル最盛の頃は、勉強などしなくても、就職口はいくらでもあった。とくに情報系は、卒業生を目当てに、会社の人事担当の人が次々とひっきりなしに教授を尋ねてきて、応対におおわらわであった。バブル崩壊以後の就職難になってからは、学生の方が企業説明会や会社訪問

に明け暮れて、卒業研究も手がつかない状態が続いている。社会の中での大学教育の使命は何なのか。このままで、世界の中で、将来、日本はやっていきけるのだろうか。考えさせられる今日この頃である。

エピローグ

学部開設当時から関わってきた大半の教員はすでに去って行った。そして、多数の教員が新たに加わった。今年度から大学院が発足した。「経営情報学部」は新しいステージに入った。この転機に当たって、新任の4人の先生の歓迎会の席で、「花」という題の新しく憶えた日本語の歌を歌った。これまで、教職員の歓送迎会では、沖縄の方言の古い歌を歌ってきた。丁度、大田沖縄県知事が基地の地主の代理署名を拒否して揺れている時であった。本土の0.5%の土地に75%の基地が存在する「差別」は、住民の利益を代表する自治体の長としては承服しかねる、というのがその理由であった。ここ沖縄の地では、トフラーのいう第三の波の訪れには程遠いようである。

花

川は流れて どこどこ行くの
人も流れて どこどこ行くの
そんな流れが つく頃には
花として 花として
咲かせてあげたい
泣きなさい 笑いなさい
いつの日か いつの日か
花を咲かそうよ

花は花として 笑いもできる
人は人として 涙を流す
それが自然の 歌なのさ
心の中に 心の中に
花を咲かそうよ
泣きなさい 笑いなさい
いついつまでも いついつまでも
花を咲かそうよ

第3部 資料

IG 経営情報学入門（必修）2単位 1期**授業の主旨**

経営情報学科の包括的な共通基礎を担う科目であり、専門科目のA群、B群、C群の相互の関連を理解し、併せて、学習に関する基本的な考え方や技術を身につける。

授業の目的

「経営情報」全体のあらましを知って、大学で何を専攻し、4年間で何を経験し、身につけて卒業し、どんな社会人（職業人・生活者）になりたいかについて真剣に考え、主体的に自らの将来の方向づけを行い、その進路選択に沿って効果的な学習が実践できるよう、指導する。

授業計画**1. 授業のオリエンテーション（1コマ）**

①自らの「学生生活への期待」を自覚し、
②中部大学の教育の理念と経営情報学部の教育方針ならびにこの科目の授業の進め方を理解し、③隣席同士自己紹介し合って交流をはかる。

2. 社会・経営・コンピュータ（1コマ）

企業が、社会からの要請に応じて、どんな考え方で（経営理念）、どんな組織を作ってどんな商品やサービスを市場に提供し（経営戦略）、顧客や社員からの信頼を勝ちとっていくか（企業アイデンティティ）。その過程でコンピュータがどう活用されるか（情報戦略）。小冊子を読み、小テストを行い、隣席同士ディスカッションし、解答と解説をきき、理解を深める。

3. マルチメディア（1コマ）

デジタル技術をベースに、双方向的な、マルチメディア、インターネット、バーチャリアリティ技術の出現によって、これまでに存在しなかった全く新しい社会が誕生しつつある。そこではどんな可能性が開かれるだ

ろうか。同時に、どんな危険が待ち受けているだろうか。テキストを読んで、レポートを書き、小テストを行い、隣席同士ディスカッションし、解答と解説をきき、理解を深める。

4. 企業経営と情報の実践（3コマ）

企業活動のドキュメンタリビデオを2本みる。予め示された枠組みに沿って映像をみて、経営と情報の関連を実感的に理解、整理し、これをレポートにまとめる。

5. 大学、学部の学習環境（3コマ）

学生がキャリア形成の基礎として、大学での学習機会を自律的に活用できるよう、有益と思われる以下の情報を提供する。①レポートの書き方、ディスカッションの仕方など。②4年次の卒業研究発表の記録映像。③経営系、情報系のOBを招き、学生時代および職業人としての体験を踏まえての後輩への助言。④大学機関の紹介（図書館、学術情報センター、国際交流センター）

6. 担当教員による専門科目の紹介（5コマ）

経営情報学科のカリキュラムの中で、専任教員によって行われる授業科目について、教員自らその内容を紹介する。学生はこれらの科目の中から、自分が選択する進路に沿って、在学中毎学期、独自の授業時間割を自律的に組み立てていく。

評価方法

成績評価は①授業への参加状況（欠席・遅刻および授業中の態度など）（20%）、②小テスト（30%）、③レポート（50%）を総合して行う。なお期末テストは行わない。

教科書

「マルチメディア」 西垣通 岩波新書 580円

その他印刷物を授業中に配付。

平成8年度「経営情報学入門」日程表

回	月／日	授業内容	ページ	備考
1	4／11	・自己表現 - 授業のオリエンテーション ・授業の目標，進め方，評価方法 ・ペア交流	2 5, 6	0 シラバス 1 日程表
2	4／25	・自己表現コメント - 経営情報学の課題と展望 ・情報読み取り課題シート	3, 4 7	別冊 8 用語解説
3	5／2	経営の国際化 ・ビデオ観察（NHK特集1985） 「アメリカ製日本車」	15	
4	5／9	・ビデオ実習（経営のフレームワーク） - 経営情報学の課題と展望（続き） ・理解促進テストと解説 ・レポートの書き方	16 9, 10, 11, 12 14	
5	5／16	・理解確認テスト－1 - 日本社会の情報化 ・新聞記事 ・理解促進テスト	13 18	テスト1 別冊
6	5／23	・理解確認テスト－2 - 経営の情報化 ・ビデオ観察（NHKスペシャル1996） 「パチンコホール経営と情報」	18 17	テスト2
7	5／29	アメリカの情報化社会の進展 —オハイオ大学客員教授講演	19	レポート1
8	(座席替え) 6／6	・レポート コメント ・アメリカの経営革新とイントラネット - 授業の振り返り ・資料整理 ・ペア交流	20	別紙 別冊
9	6／13	大学学習環境の情報提供 ・図書館 ・学術情報センター ・国際交流センター		
10	6／20	私の大学生活と職場生活 —OBの話		レポート2
11 12 13	6／27 7／4 7／11	経営情報学部専門科目の紹介 —担当教員		テスト3 授業評価 レポート3

自己表現：「大学生活への期待」

課題：これからの4年間の大学生活で、どんなことを実現したいと望んでいるか、そのためにどんなことを実行していこうと考えているか（「思考」）、「心」の中の鏡に映し出してみても、これまでとこれからの「自己」の姿をよく「観察」し、「他者」に「伝達」可能な「表象」（文字）によって、原稿用紙400字以内に、30分で「表現」する。

済んだ人は、読み返して、誤字がないか、チェックする。

自己表現コメント

「伝達」のために「思考」された「表象」

形式（約束ごとを守る）

- ・指定に従う。疑問は尋ねる。

交友 趣味		勉学
	大学 生活	
部活		バイト

感じる		考える
	生きて いる	
生きて いく		行う

- ・始めのひとマスをあける。
- ・段落をつける。（起承転結）
- ・「です」「である」を混ぜない。
- ・字は大きめに、濃いめに。
- ・余白を多く残さない。（やる気のなさ）

内容（読み手に良い印象を!）

- ・題の取り違えに注意。
- ・余りくだけ過ぎない。
- ・視点の狭さ、偏り。
- ・掘り下げの浅さ。
 - ・空間の拡がり——場所の移動
 - ・時間の拡がり——過去、未来
 - ・人間の繋がり——自他の情感

意識		記憶 知識
	情動	
生得的		経験

主体		ベキ
	想像と 現実	
タイ		デキル

「自己表現」参考文献

加藤秀俊 「自己表現」 中公新書, S. 53.
 辰濃和男 「文章の書き方」 岩波新書, 1994.
 斉藤勇 「自己表現上達法」 講談社現代新書, 1989.
 佐藤綾子 「自分をどう表現するか」 同上, 1995.
 森有正 「生きることと考えること」 同上, S. 51.
 木村敏 「自分ということ」 第三文明社, 1987.
 岩田慶治 「自分からの自由」 講談社現代新書, S. 63.

伊藤順康 「自己変革の心理学」 同上, 1990.
 たたら幹八郎 「アイデンティティの心理学」, 1990.
 時実利彦 「人間であること」 岩波新書, 1970.
 丸山圭三郎 「言葉と無意識」 講談社現代新書, S. 62
 河合隼雄 「無意識の構造」 中公新書, S. 52.
 野口悠紀雄 「超」勉強法 講談社, 1995.
 小林康夫／船曳建夫編 「知の技法」 東京大学出版会, 1994.
 同上「知の論理」1995.
 同上「知のモラル」1996.

授業の目標、進め方、評価方法

- ①社会要請：社会からのどんな要請にこたえて，
 ②教育理念：どんな基本的な考え方で，
 ③授業目標：どんな目標実現のために，
 ④授業方法：どんな授業システムによって，
 ⑤事業アイデンティティ：関係者・学生・教職員からの信頼を勝ちとろうとしているか。

③	②	
	教育理念	
	・建学の精神に則った授業展開 ・授業は学生と教員の共同作業	
③	授業目標	授業システム
	・新入生が大学生活になじむ ・効果的な勉強の仕方を身につける ・経営情報学のイメージをつかむ	・課題と作業 ・理解度テスト ・視聴覚教材の活用 ・学部外資源の活用
	事業主体	
⑤		
		・学生 ・学部教職員 ・学部外協力者 ・その他関係者

④	①	
	社会要請	授業文化
	・健全な社会意識の形成 ・広い知識 ・専門の学芸	・体験学習重視 ・相互学習重視 ・学習と実践の統合
④	④	
	勉学態度—20%	2215京室 4月11日—7月11日 (木)13:30～15:00 (345名)
	レポート—50% テスト—30%	
③	③	
	個人欲求	行動能力
	・安心感 ・達成感 ・充実感	・効果的な進め方 ・秩序ある行動 ・フィードバックの組み込み
④		

中部大学の教育理念：「不言実行，あてになる人間」

人から信頼される人間とは，
 相手から期待されたことを確実に実現できる
 人間のことである。

何を言うか，言わないか，「言葉」の次元の問題ではなく，
 何を行うか，行わないか，「行動」の次元の問題である。

実現過程で困難に出会った時，簡単に諦めてしまうのではなく，
 実現することに興味と関心を持ち続け，
 自ら創意工夫したり，人に助言を求めたりして
 なし遂げる。

創造的で柔軟性に富んだ，積極的で行動力の
 豊かな人間のみが，
 人との真の信頼関係を築くことができる。

変化の激しい，未知との出会いの多いこれからの
 情報社会では，
 こうした人物が求められている。

経営情報学部教育目標：

「経営のことが分かって，コンピュータが使える人」

この授業の教育目標：

- (1) 大学での学習への方向づけ。
- (2) 経営情報学のイメージをつかむ。

この授業の教育方法：「自律性」と「社会性」
 を重視した，
 体験観察学習が中心。

成績評価：

学期末試験はなし。

- ①学習態度 (20%)，②小テスト (30%)，③
 レポート (50%)

山田・大島・足達編『経営情報学への招待』成文堂，1994

第1章 経営情報学の展望と課題—提言的試論— （高柳実）

I 経営情報学の展望と課題

1. 経営情報学部教育の目的は何か。
2. 学校教育法でいう大学の目的は何か。
3. 現在の「経営情報学」に対しての3通りの認識とは何か。

II 社会科学としての経営情報学の領域

4. 経営学とはどんな経験科学か。
5. 「経営情報学」は、比喩的に表現すると、どんな学問か。
6. 「経営情報学」を修める前提として求められることは何か。
7. 企業経営に関わる人間全てが、集団としての状況認識や意思決定を一致させるためには何が必要か。
8. Wienerが定義した「情報」とは何か。
9. 情報科学において研究対象の情報として扱われるのはどんなものか。
10. 経営体で共通の認識を形成するにはどうするか。

11. 情報科学の経営領域における中心的課題になるのは何か。
12. 経営者の意思決定はどんな性質か。
13. 経営者の創造活動を解明出来る学問研究は、どんな研究か。
14. 企業経営とはどんな集団的行為か。
15. 情報とはどんなものと考えべきか。
16. 15のような対象に対して有効なアプローチは何か。

III 経営情報学の独自の特徴

17. 経営情報学では、知の学習に並行しての行の習練を行わなければならないのはなぜか。
18. 情報を考える場合には、何を踏まえねばならないか。

IV 経営情報学の背負う課題

19. カリキュラムの編成過程での妥協とはどんなことか。
20. 経営情報学の本質的な研究は、どうすれば可能となるか。

用語解説

E D P 会 計 =p.3= (electronic data processingの略) 電子計算機資料処理のことで、EDPを用いた会計処理活動のこと。コンピューターの会計。

O A =p.4= (office automation) オフィス・オートメーションの略。各種の情報処理機器を駆使して事務所業務を総合的に自動化・効率化すること。

ソフトウェア =p.7= 【software】コンピューターのプログラムを抽象的にとらえる呼称。コンピューターの運用に関する手順や処理する情報などを含めてもいう。ソフト。「一工学」「一危機」情報を表現・伝達する媒体とは区別して、情報の内容を指す語。放送の番組や記録された音楽・映像など。ソフト。「AV-」

フィードバック =p.7= 【feedback】電気回路で出力の一部が入力側にもどり、それによって出力が増大または減少すること。また一般に、結果に含まれる情報を原因に反映させ、調節をはかること。帰還。饋還。

アルゴリズム =p.8= 【algorithm;algorithmism】(アラビアの数学者アル＝フワリズミーの名に因む) アル＝フワリズミー記数法。問題を解決する定型的な手法・技法。コンピューターなどで、演算手続きを指示する規則。算法。

S I S(※) =p.8= (Strategic Information System) 組織の戦略的目的のための情報システムのこと。業務の効率化、経営管理の目的のほか、経営戦略を実現する情報システムという側面と、戦略的な情報を加工するシステムという側面がある。

修辞学 =p.8= 【修辞】とは言葉を有効適切に使い、もしくは修飾的な語句を巧みに用いて、表現すること。また、その技術。ことばを飾り立てること。また、ことばの上だけでいうこと。「それは一で言ったにすぎない」

形而上学 p.9= 【metaphysics】元来「自然学の後に置かれた書」(ta meta ta physikaギリシア) という意味の語で、アリストテレスの死後、著書編集の際に、存在の根本原理を論じた書をロドスのアンドロニコスが自然学書の後に配列したことに由来。アリストテレスはこれを第一哲学と呼び、それは、哲学史・定義集・存在論・自然神学の四部に分けてある。現象を超越し、またはその背後に在るものの真の本質、存在の根本原理、絶対存在を純粹思惟により或いは直観によって探究しようとする学問。神・世界・靈魂などがその主要問題。

暗黙知(※) =p.10= 言語で表現される明示的な知の背後でそれを支えている無意識的な知のこと。たとえば、部分の知覚と意味を持った全体(顔、いす、等)の認知とを結びつけるのは暗黙知の働きであり、学習によってある活動(運転、等)が無意識的に行われるようになるのも暗黙知の働きである。意味を媒介として現実を認識し現実に関与させる人間の活動を、言語表現のレベルに限定されずに全体的にとらえることを可能にする概念。M. ポランニーの用語。

【注】出典は『広辞苑』。ただし※印のあるものは『imidas』。表記の都合上一部加工。

理解度テスト(1)

テキストで言わんとしていることと合致していれば○印を、合致していなければ×印を左端に付けなさい。

- ___ 1. 経営情報学部教育の目的は、一般的に、「経営学、経営管理の広範な知識を基礎として、コンピュータの知識と技術を駆使出来る人材の育成」である。
- ___ 2. 学校教育法によると、「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、知的、道徳的及び应用能力を展開させることを目的とする。」
- ___ 3. 中部大学経営情報学部の結論的な公式見解としては、「経営情報学」を独立した分野を有する学問として認識している。
- ___ 4. 経営学は、「経済社会で営利を追求する企業を、その存在を容認した上でそこにおいて用いられている種々の経営管理の技術と併せて、企業の実態と本質を究明しようとする経験科学」である。
- ___ 5. 経営情報学は、比喩的に表現すると、情報科学を父とし経営学を母として生まれた新しい学問と言える。
- ___ 6. 経営情報学を修める前提として経営学自体の習得が求められる。
- ___ 7. 企業経営においては、関係する全ての情報の収集と合理的な処理およびその正確な伝達等が必要となる。
- ___ 8. Wienerの定義による「情報」は、生物および自動制御系を持った機械システムが、その運動器官を通じて外界との間で交換するすべてのものの内容をさす。
- ___ 9. 情報科学においては、無限に存在するものの中から感覚器官が意識的に選択した極めて少数なもののみが、研究対象の情報として取り扱われる。
- ___ 10. 経営体が共通の認識を形成するには、業務を分担する各セクションで把握したデータを、統一的に集めて情報にまで加工処理し、その情報を各セクションにフィードバックし、更に各セクション間で伝達し合う必要がある。
- ___ 11. 情報科学の経営領域における中心課題になるのは、如何なるデータが必要で如何なるデータが不必要なのか、また、如何なる情報を如何に加工すれば、効率的に有効に得られるか、等の応用研究である。
- ___ 12. 経営者の意思決定は、極めて個人的な判断によるもので、その時々々の環境条件によって左右されるものではない。
- ___ 13. 経営者の意思決定を解明出来る学問研究は、修辞学と論理学を踏まえて展開されるような近代記号論のアプローチと、それと緊密に繋がる行動科学面での研究である。
- ___ 14. 企業経営とは、人間が集団社会を形成する際に選択したルール、つまり法制や機構の上において、利潤追求原理に従って最も効率的に目的を達成しようとする集団の行為である。
- ___ 15. 情報とは、意味、考え、知識、を付与される以前の、飽くまでも、人間集団が五感をもって感応したその内容を、より適確に表現する手段として選択した意思、そのものと考えらるべきであろう。
- ___ 16. 15のような情報概念を取り扱えるのは、現在の情報機器が更に進歩し、それと不可分の関係で進展していくような情報科学であろう。
- ___ 17. 経営情報学は、常に経営にとって有用でなければならず、情報処理に有効な技術と深く関わり合わねばならない学問である。
- ___ 18. 情報を考える場合には、人間の根元にまで遡り、東洋の先哲の思想や考察を踏まえねばならぬ。
- ___ 19. カリキュラムでは、いわゆる経営科学と完全に重複した教科目は少ないが、独自の経営情報学として学習すべきなのに、欠落している教科目もいくつかある。
- ___ 20. 経営情報学の本質的な研究は、既存の学問領域を越えて広く大勢の研究者の参画を得てでなければ不可能と思われる。

理解度テスト（１）正誤

1. 経営情報学部教育の目的
 - ①経営学、経営管理の広範な知識を基礎として
 - ②組織の中の情報の本質と意味を熟知するとともに
 - ③コンピュータの知識と技能を駆使出来る人材の育成
2. 大学教育の目的
学術の中心として
 - ①広く知識を授けるとともに
 - ②深く専門の学芸を教授研究し
 - ③知的、道徳的及び応用能力を展開させる
3. 「経営情報学」に対しての認識
 - ①「経営学」と「情報科学」との総称
 - ②経営・管理分野に於ける情報現象の解明
 - ③独立した分野を有する学問
7. 企業経営の創造的活動のメカニズム
 - ①関係する全ての情報の収集と合理的な処理
 - ②合目的な意思形成の過程
 - ③その正確な伝達
8. 運動器官→感覚器官
9. 情報科学の研究対象の情報
無限に存在するものの中から感覚器官が
 - ①意識的に或いは
 - ②無意識的に
 選択した極めて少数なもののみ
11. 情報科学の経営領域における基礎研究
組織として意思形成を行う際、
 - ①いかなるデータが必要で、
 - いかなるデータが不必要か、また
 - ②いかなる情報をいかに加工すれば、
 - 効率的に有効に得られるか
12. 経営者の意思決定とは、
 - ①極めて個性的な判断による、しかも
 - ②その時々々の環境条件によって、変幻自在に変化
15. 人間集団→個人
意思→記号
16. 有効なアプローチ
心理学や記号学を土台としたような
形而上学的な考察と究明
18. 情報を考える場合には、
人間の根元にまで遡り、東洋、西欧を問わず、
広く先哲の思想や考察を踏まえねばなるまい。
19. カリキュラムでは、
いわゆる経営科学と完全に重複した教科目の
多い反面、独自の経営情報学として学習すべきなのに、
欠落している多くの教科目がある。
20. 経営情報学の本質的な研究は、
喧騒な企業活動の現場において広く大勢の実
務家の参画を得てでなければ不可能とすら
思われる。

理解度テスト（１）解説

1. 組織の中の情報の本質と意味
K社 ・ ・ 苦情処理 ・ 応答マニュアル
・ 営業、広告
・ 新商品開発
F社 ・ ・ 円高 ・ 技術部
・ 購買部

3. 独立した研究分野

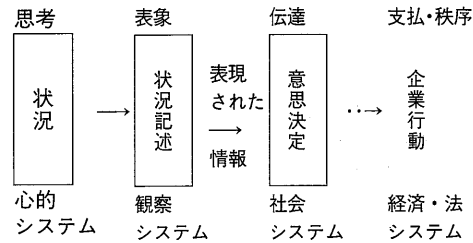
文系	理系
(教育、教養) 法文経 商 経営	理工医農 情報
経営情報	

5. 固定観念からは新しいものは生まれない。
- 練習問題 1. ABC 3 人それぞれが、手に木片を持っている。
A が手を離すと、木片は下方へ落ちた。
B が手を離すと、木片は上方へ上がった。
C が手を離すと、木片は動かなかった。
他者が納得するように、理由を説明せよ。

練習問題 2.

- 9 点全部を . . .
一度ずつ通るように一筆書きで . . .
4 本の直線で結べ。 . . .

7. 企業意思決定モデル



8. 運動器官→感覚器官

9. 無意識＝記憶場所は体全体

暗黙知、行動的知識、習慣行動

13～16

修辞学（レトリック）

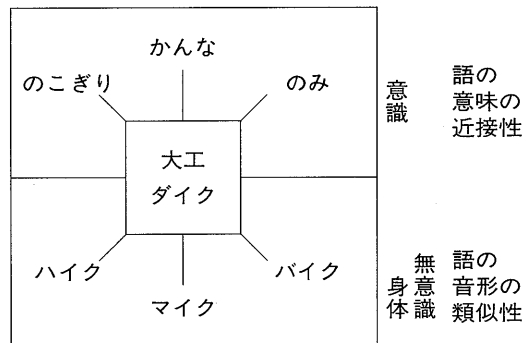
・「譬え」イメージ

「母親は死んだ。」（ATT分割時の、会長の言葉）

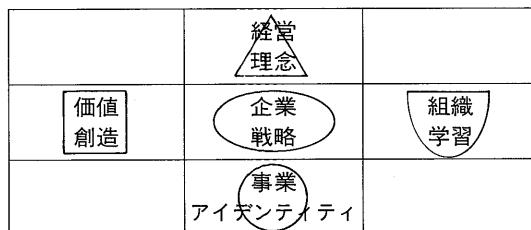
・「異化」目新しさ

「白菜が赤帯しめて店先に うっふんうっふん肩を並べる」（俵万智）

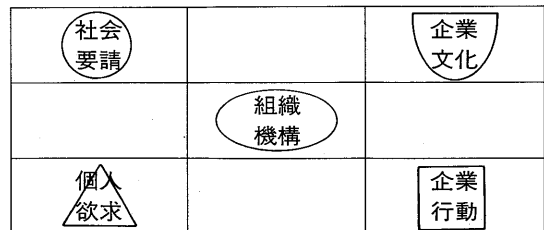
記号論



行動科学



意識



無意識（身体）
集団行動

19. 重複＝OR，管理工学・・・

欠落＝意思決定論，企業文化論・・・

理解度テスト(1)

テキストで言わんとしていることと合致していれば、印を、合致していなければ印を左端に付けなさい。

5. 経営情報学は、比喩的に表現すると、情報学を父とし経営学を母として生まれた新しい学問と言える。
6. 経営情報学を修める前提として経営学自体の習得が求められる。
17. 経営情報学は、常に経営にとって有用でなければならず、情報処理に有効な技術と深く関わり合わねばならない学問である。
20. 経営情報学の本質的な研究は、既存の学問領域を越えて広く大勢の研究者の参画を得てでなければ不可能と思われる。
1. 経営情報学部教育の目的は、一般的に、「経営学、経営管理の広範な知識を基礎として、コンピュータの知識と技術を駆使出来る人材の育成」である。
3. 中部大学経営情報学部の結論的な公式見解としては、「経営情報学」を独立した分野を有する学問として認識している。
19. カリキュラムでは、いわゆる経営科学と完全に重複した教科目は少ないが、独自の経営情報学として学習すべきなのに、欠落している教科目もいくつかある。
2. 学校教育法によると、「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、知的、道德的及び応用能力を展開させることを目的とする。」
4. 経営学は、「経済社会で営利を追求する企業を、その存在を容認した上でそこにおいて用いられている種々の経営管理の技術と併せて、企業の実態と本質を究明しようとする経験科学」である。
14. 企業経営とは、人間が集団社会を形成する際に選択したルール、つまり法制や機構の上において、利潤追求原理に従って最も効率的に目的を達成しようとする集団的行為である。
7. 企業経営においては、関係する全ての情報の収集と合理的な処理およびその正確な伝達等が必要となる。
10. 経営体が共通の認識を形成するには、業務を分担する各セクションで把握したデータを、統一的に集めて情報にまで加工処理し、その情報を各セクションにフィードバックし、更に各セクション間で伝達し合う必要がある。
12. 経営者の意思決定は、極めて個人的な判断によるもので、その時々環境条件によって左右されるものではない。
13. 経営者の意思決定を解明出来る学問研究は、修辞学と論理学を踏まえて展開されるような近代記号論のアプローチと、それと緊密に繋がる行動科学面での研究である。
15. 情報とは、意味、考え、知識、を付与される以前の、飽くまでも、人間集団が五感をもって感応したその内容を、よりの確に表現する手段として選択した意思、そのものと考えるべきであろう。
16. 15のような情報概念を取り扱えるのは、現在の情報機器が更に進歩し、それと不可分の関係で進展していくような情報科学であろう。
18. 情報を考える場合には、人間の根元にまで遡り、東洋の先哲の思想や考察を踏まえねばならぬ。
8. Wienerの定義による「情報」は、生物および自動制御系を持った機械システムが、その運動器官を通じて外界との間で交換するすべてのものの内容をさす。
9. 情報科学においては、無限に存在するものの中から感覚器官が意識的に選択した極めて少数なもののみが、研究対象の情報として取り扱われる。
11. 情報科学の経営領域における中心課題になるのは、如何なるデータが必要で如何なるデータが不必要なのか、また、如何なる情報を如何に加工すれば、効率的に有効に得られるか、等の応用研究である。

レポートの書き方

レポートの書き方は、科目やテーマの性質によって、違いがある。その都度、教員の指示を確認すること。ここにあげたガイドは、「経営情報学入門」に限定してある。どんな場合にも共通して重要なことは、

- ① 決められたことを守り、
- ② 自分の伝えたいことは何か、を自覚し、これを
- ③ 読む人にとって分かりやすいように表現する、ということ。

形式面

1. 期日：厳守すること。
2. 用紙：A 4 レポート用紙、横罫の入ったもの。
3. 表紙：①授業科目名、②タイトル、③提出日、④学生番号、氏名。
4. 本文：・指定された枚数。
 - ・1行おきに書く。
 - ・ページを書く。
 - ・表紙と本文をホッチキスで上2カ所とじる。
5. 文体：・「だ、である」と「です、ます」を混ぜない。
 - 大学では、「だ、である」で書くのが普通。
 - ・自分の文章と他の人の文章は、分かるように書く。
 - ・どういう本で誰が書いたものかを書く。
 - ・類似のものを何度も繰り返さない。
 - ・同じような単語や表現は何度も使わない。

内容面

1. 主体意識：・事実の記述、意見の主張、心情の訴えのバランスを考える。
2. 内容の整理：・書く前に何を書くかを整理しておく。思いつきで書かない。起承転結など。
3. 論旨の展開：・段落をつける。見出し。
 - ・段落と段落のつじつまを合わせる。
4. 意見の表示：・意見にはハッキリした根拠を示す。
 - ・自分の意見だけで書かない。
 - ・他人の発言、文章を丸写ししない。
5. 文章表現：・もってまわった言い回しをしない。
 - ・1つの文章を長くしない。
 - ・形容詞と副詞を最小限にする。

レポート課題

- 第1回 「日本社会の情報化—新聞記事を読んで」(2枚)
5月30日
- 第2回 「読書研究—“マルチメディア”の要約とコメ

ント」(2枚以上) 6月20日

第3回 「この授業から学んだこと」(ワープロ、40字×30行、ワープロ用紙2枚以上) 7月11日

参考文献

- 山田・大島・足達編 (1994), 「経営情報学への招待」, 成文堂。
- 山田・大島・足達編 (1995), 「経営情報学への展開」, 成文堂。
- 西垣 通 (1994), 「マルチメディア」, 岩波新書。
- 村井 純 (1995), 「インターネット」, 岩波新書。
- 金子いく容 (1995), 「ボランティア—もうひとつの情報社会」, 岩波新書。
- 西垣 通 (1995), 「聖なるバーチャル・リアリティ」, 岩波書店。
- 日本経済新聞社編 (1995), 「マルチメディア重要語辞典」, 日本経済新聞社。
- 高木晴夫ほか著 (1995), 「マルチメディア時代の人間と社会」, 日科技連。
- 石井威望 (1994), 「マルチメディア文明論」, PHP。
- 林・大村編著 (1994), 「文明としてのネットワーク」, NTT出版。
- 金子いく容 (1986), 「ネットワーキングへの招待」, 中公新書。
- 梅棹忠夫 (1988), 「情報の文明学」, 中央公論社。
- 公文俊平 (1994), 「情報文明論」, NTT出版。
- 嘉味田朝功 (1995), 「情報文明の行動科学」, 産能大学出版部。
- 公文俊平 (1994), 「アメリカの情報革命」, NECクリエイティブ。
- 林 周二 (1987), 「日本型の情報社会」, 東京大学出版会。
- ダニエル・ベル (1995), 「知識社会の衝撃」, TBSブリタニカ。
- 増田裕司 (1995), 「情報仮想空間と日本の選択」, 富士通ブックス。
- 若林一平 (1995), 「文化としての個人電腦入門」, 朝倉書店。
- 竹内 啓編 (1988), 「意味と情報」, 東京大学出版会。
- 樺山紘一 (1988), 「情報の文化史」, 朝日選書。
- 松岡・戸田編 (1986), 「情報と文化—多様性・同時性・選択性」, NTT Ad。
- 池上嘉彦 (1985), 「記号論への招待」, 岩波新書。
- 中野 収 (1984), 「コミュニケーションの記号論」, 有斐閣。
- 川崎賢一ほか (1994), 「メディア コミュニケーション」, 富士通ブックス。

経営観察のフレームワーク

次の質問を考えながら、ビデオを観る。

- ①社会要請：社会からのどんな要請に
②経営理念：どんな考え方で、
③組織戦略：どんな組織を作って、

- ④市場戦略：どんなサービスを市場に提供し、
⑤事業アイデンティティ：顧客や社員からの信頼をかちとろうとしているか。

	②		
	経営理念		
	・顧客本位の経営 ・人的資源の活用 ・組合との協調		
市場戦略	企業戦略	組織戦略	
④	・品質保証 (基準厳しい) ・低価格	合併によるアメリカ製日本小型車の製造・販売	・職種区分大きく ・チーム編成 (班長応援) ・部長会 (ヨコの連係) ・職場ミーティング
	事業主体		
	・ラインストップ ・系列		
	⑤		

③	①	
	社会要請	企業文化
	・安くて信頼できる車 ・差別禁止 (人種、性別)	・個人責任 (米) ・権限敏感 (米) 直属部下以外は叱ってはダメ
		企業行動
③	個人欲求	行動能力
	・装身具ダメ (仕事中) ・食堂一つ (管理職も並ぶ)	・徹底した教育 (マンツウマン) ・改善サークル
③		

練習問題

1. から 8. までの空欄にaからhまでの言葉を選んで書き込みなさい。

- ①社会要請：社会からのどんな要請に
②経営理念：どんな考え方で、

- ③組織戦略：どんな組織を作って、
④市場戦略：どんなサービスを市場に提供し、
⑤事業アイデンティティ：顧客や社員からの信頼をかちとろうとしているか。

②		
	経営理念	
	・顧客本位の経営 ・人的資源の活用 4.	
市場戦略	企業戦略	組織戦略
④ 3. ・低価格	合併によるアメリカ製日本小型車の製造・販売	5. ・チーム編成 (班長応援) ・部長会 (ヨコの連係) ・職場ミーティング
	事業主体	
	・ラインストップ 8.	
⑤		

③	①	
	社会要請	企業文化
	・安くて信頼できる車 1.	・個人責任 (米) 6. ・直属部下以外は叱ってはダメ
		企業行動
③	個人欲求	行動能力
	2. ・食堂一つ (管理職も並ぶ)	7. ・改善サークル
③		

- a. 職種区分大きく b. 徹底した教育 c. 差別禁止 d. 装身具ダメ
e. 権限敏感 (米) f. 組合との強調 g. 品質保証 h. 系列

理解度テスト (2)

新聞で言わんとすることに合致するものに○印を、しないものに×印をつけなさい。

- ___ 1. マルチメディア社会は、映像をコミュニケーションの手段に使うことが特徴と言われるが、だからといってこれまでの言語の重要性が著しく減少するわけではない。
- ___ 2. 自分の仕事の中に映像をどう取り込んでいくのか、その場合にどんな道具が必要で、どう使いこなすのか、という視点で考えることが大切だ。
- ___ 3. 十年前のINS実験は、大量の情報を送るためにネットワークをアナログ化すべきだという社会的合意を作った。
- ___ 4. フランスは世界に先駆けて情報端末ミニテルを普及させた。
- ___ 5. 西欧文化が世界を制覇できた最大のポイントのひとつは、グーテンベルクの活版印刷術である。
- ___ 6. 冷戦以降の国際社会で必要なのは、多種多様な他文化を尊重しつつ、同時に自文化を反省する知的努力なのである。
- ___ 7. マルチメディアはインターネット時代のコミュニケーションの道具である。
- ___ 8. マルチメディア時代は光ファイバーが主役になるが、それは既成の電話回線が飽和状態に達したからである。
- ___ 9. インターネットはいわば無法地帯で、参加者のモラルを信じる性善説に頼るしかない。
- ___ 10. バーチャルとは、あたかも生体が常に休むことなく新陳代謝を続けな

がら一つの形相を保っているのに似ている。

- ___ 1 1. 地位や国境といった枠組みを壊す意味で、インターネットの役割は大きいといえる。
- ___ 1 2. ホストコンピューターが中心の星型のパソコン通信と違って、中心のない網型のインターネットは新しい国際社会といえる。
- ___ 1 3. インターネットの最大の魅力は、世界の誰もが参加でき、誰にも監視されない自由である。
- ___ 1 4. フランスのルーヴル美術館などの絵がインターネットで検索できる。
- ___ 1 5. ミスミソニアン博物館は、展示品の映像などをインターネットで情報発信し始めた。
- ___ 1 6. 出井ソニー新社長は、社内に電子メールを使った目安箱を設置したところ、一日500件近くも舞い込み、対応に苦慮している。
- ___ 1 7. 電子メールはパワーのある経営革新の妙薬で、今のところこれといった副作用は見当たらない。
- ___ 1 8. インターネットやパソコン通信で会社情報を検索できるようになると、紙の就職情報誌はなくなるだろうといわれている。
- ___ 1 9. 仮想商店街では、利用者が画面をパソコンで見て各店を訪ね、取引をする。
- ___ 2 0. インターネット上で注文のみを受け付け、銀行振込などで代金を回収するのは、クレジットカード決済では、「情報の秘匿性」が獲得できないからである。

ニューヨーク駐在員レポート

May 29, 1996 (Toru Maegawa)

イントラネットとは何か

1. 通信プロトコルとしてTCP/IPを利用していること。
2. 情報伝達の方法として少なくとも1種類のインターネット標準を採用していること。
3. 企業内あるいは特定の組織内に構築されており、外部から部外者がアクセスできない情報やサービスがあること。

マイクロ・インターネット

世界170カ国(地域)を結ぶインターネットにできて、社内ネットワークで出来ないはずはない。では、社内にマイクロ・インターネットを作ってみよう。

イントラネットでは何ができるか

- (1) 電子メール
- (2) グループ・ディスカッション
- (3) 情報の共有
- (4) 業務アプリケーション
- (5) その他

導入事例

95年12月の調査によれば、米国の大企業1000社のうち22%は既にイントラネットを利用している。

イントラネット市場の展望

96年末までにフォーチュン誌の主要1000社すべてがイントラネットを利用することになるだろう、との大胆な予測。

リ・エンジニアリングと情報化

	経営理念	
	情報化の徹底により 企業経営・組織の 合理化	
市場戦略	企業戦略	組織戦略
Customer Satisfaction		・ Hierachの解体 ・ Layersのカット ↓
	事業共同体	権限委譲
	Information Sharing	

アメリカの経営革命

「企業経営・組織の合理化のために、先ず取り組まなければならないことは、指揮命令系統のピラミッド (Hierarch) を解体し、組織の多層構造 (Layers) をカットすること。

そうすることにより、不要な管理職層がもっていたMandateは、下の者に降ろされ、より多くの権限と責任を有する管理者が、より少数の上下関係の中で、迅速に経営判断を下せるようになる。

その際のポイントは、Information Sharingと社員教育の徹底、そしてその結果もたらされるチームワークの力」である。

組織内の情報化・電子化の徹底によって、これまでの縦割り組織に存在していた情報の壁が消え、情報の共有化によって個人の判断能力が高まり、優れたチームワークが発揮され、組織の創造力が生まれる。

その結果「組織にも経営判断にもフレキシビリティと機動性 (Agility) が生まれ、最先端の市場ニーズに柔軟に対応することが可能となり、Customer Satisfactionを常に最大化できる」ということになる。

日本でも、企業経営と組織の改革のために、情報化が一番遅れている部分に焦点を当てて、イントラネット、グループウェアを最大限活用する計画を進めてみてはどうだろう。

社会要請		企業文化
		・ フレキシビリティ ・ 機動性
		(経営判断における)
個人欲求		企業行動
		・ 社員教育の徹底 ・ チームの力

経営情報学入門授業感想記録

(座席)

(番 号)

(氏 名)

月	日	回	授業内容	今日の授業が終わって感じたことは (質問, 意見, 要望など, 何でも)	備考	
					出欠	
		1				
		2				
		3				
		4				
		5				
		6				
		7				
		8				
		9				
		10				
		11				
		12				
		13				
		14				

○出席 △遅刻, 早退 ×欠席 □公欠

平成 7 年度 経営情報学入門

授業予定と作業ノート

座 席

☐ブロック

前から☐列目

右から☐番目

G 9 5 ☐☐☐

授 業 予 定

月/日	回	授 業 内 容	備 考
4/13	1	① 担当教員の紹介 ② ペア・インタビュー ③ 授業の目標・進め方, 評価方法 ④ 自己表現「大学生活への期待」	P.1 P.2 P.3 原稿用紙
4/27	2	① 自己表現コメント ② 経営情報学部教育課程 ③ 「経営情報学」とは	P.4 P.5 別冊子, P.4
5/11	3	① 理解度テスト-1 ② 情報技能 ・ノートの取り方 ・レポート の書き方 ・ディスカッションの仕方	マークシート・問 題 P.6
5/18	4	① 平成 7 年度演習 A 紹介 (ビデオ) ② 演習配属の決定の仕方	P.7~10
5/25	5	① 経営と社会文化 (ビデオ) ② レポート-1 「日・米の経営の違い」	レポート用紙
6/1	6	① 情報社会と情報技術革命 (新聞) ② 理解度テスト-2	別冊子, P.11 マークシート・問 題
6/8	7	① 学長先生の話 ② 大学施設の利用の仕方 (国際交流センター)	P.12 P.13
6/15	8	① 学部の先生と担当授業紹介 ② 大学施設の利用の仕方 (図書館)	P.15~19 P.13
6/22	9	① 学部の先生と担当授業紹介 ② 大学施設の利用の仕方 (学術情報センター)	P.15~19 P.14
6/29	10	① 先輩の話 ② レポート-2 「先輩の話から学んだこと」	P.20 レポート用紙
7/6	11	① 学部の先生と担当授業紹介 ② 大学施設の利用の仕方 (学生相談室)	P.15~19 P.14
7/13	12	① 学部の先生と担当授業紹介 ② 授業評価 ③ レポート-3 「この授業から学んだこと」	P.15~19 レポート用紙

ペア・インタビュー

2

質問の内容 0. ア. 名前 イ. 生まれた所 ウ. 住んでいる所 1. (目標) 大学時代にやり遂げたいことは何か。 2. (他者への期待) そのために、親・先生・友達にどんなことが期待できると思うか。 3. (他者への心情) ア. どんなタイプの友達・先生が好きか。 イ. どんなタイプの友達・先生が嫌いか。 4. (他者からの期待) 自分は、親・先生・友達・からどんなことを期待されていると思うか。 5. (自己への期待) どんな考え方で大学生活を送るつもりか。 6. (自画像) ア. 得意なことは。 イ. 不得意なことは。 ウ. 性格的な長所は。 エ. 短所は。 7. (経験則) 大学生活で、出来ること・出来ないことは何か。 8. (価値観) 大学生活ではどんなことが重要と思うか。

	5. 自己への期待	
1. 目標	0. ア. 名前	2. 他者への期待
	6. 自画像	

4. 他者からの期待		3. 他者への心情
	0. イ. 生まれ ロ. 住まい	
7. 経験則		8. 価値観

五味田 朝 功

	5. 自己への期待	
1. 目標	0. ア. 名前	2. 他者への期待
	6. 自画像	

4. 他者からの期待		3. 他者への心情
	0. イ. 生まれ ロ. 住まい	
7. 経験則		8. 価値観

61

授業の目標, 進め方, 評価方法

3 62

情報社会における授業開発の理論と実践

	理念 ・建学の精神に則った授業展開 ・授業は学生と教員の共同作業		考え方 (授業文化) ・体験学習重視 ・相互学習重視 ・学習と実践の統合 (知識学習)		感じ方 (社会的要請) ・仲間への親密感 ・先生への親密感 ・授業内容への親近感 (参加的創造)
目標 ・新入生が大学生活になじむ ・効果的な勉強の仕方を身に付ける ・経営情報学のイメージをつかむ ・経営情報学部 of 教育課程を知る	経営情報学入門 (1年生必修2単位)	方法 ・課題と作業 ・理解度テスト ・視聴覚の活用 ・学部外資源の活用	[レポート60%]	2215教室 4月13日～7月13日 (木)13:30～15:00 (311名)	[授業への参加状況40%] (出席および授業中の態度)
	主体 ・学生個人 ・学生仲間 ・教員グループ ・学部外協力者		振舞い方 (授業行動) ・効果的な進め方 ・秩序ある行動 ・わかりやすい内容 (技能学習)		生き方 (個人的欲求) ・安心感 ・達成感 ・充実感 (態度学習)

経営情報学部教育課程

5

専 門 科 目		
A群	B群	C群
経営学総論 経営管理総論	簿記 会計学原理	電子計算機概論 管理工学概論
経営学史 国際経営論 経営戦略論 経営史 経営組織論 人的資源管理論 マーケティング論 流通論 経営財務論 経営立地論 企業論 中小企業論 経済原論 計量経済学 財政学 国際経済学 行動科学 経済学史 経済政策 金融論 貿易論 産業組織論 経営数学	工業簿記論 原価計算論 国際会計論 管理会計論 EDP会計 監査論 経営情報システム論 ビジネスシミュレーション 民法 商法 演習, その他 経営情報学入門 卒業研究 プログラム言語 演習 外書講読 特別講義	数値計算 情報処理応用 データ通信 データベース オフィス・オートメーション 情報管理論 情報科学 ソフトウェア科学 人口知能論 生産管理論 品質管理論 オペレーションズ・リサーチ 多変量解析論 実験計画法 マスコミュニケーション論 ニューメディア論 微分積分学 線形代数 電子工学概論

社会のシステム	外国語科目	文化と歴史
社会システム論 心の科学 生活環境と人間 日本の憲法 現代社会と法律 政治の世界 現代の経済 社会のシステム特別講義 社会の中の企業経営	基礎英語 英語表現法 英語購読 英会話 上級英会話 時事英語 科学英語 ビジネス英語	人間の発達と教育 世界の思想 日本の言語文化 世界の言語文化 日本の歴史 世界の歴史 美術の思想と表現 音楽の表現と歴史
自然と環境	入門ドイツ語 総合ドイツ語	民族と文化 文化と歴史特別講義
数学の考え方 現代数学の世界 数理科学 統計の手法 物理の世界 科学の世界 地球の科学 科学技術史	入門フランス語 総合フランス語 入門中国語 総合中国語 入門スペイン語 総合スペイン語	
生物科学 地球環境論 化学と環境 自然と環境特別講義	共通基礎 文章表現 プラクティカル英語 健康科学 情報処理入門 国際情勢入門	健康とスポーツ 健康教育論 生涯スポーツ論 身体運動の科学 スポーツ 生涯スポーツ 野外スポーツ (集中) 健康とスポーツ特別講義

劉永田 編 功

状況認識＝構造的諸問題

- 「学部」
- ・経営情報学は未だ学問の独立分野として認知されているとは言えない。
そのような学問に対して「入門」という授業は成り立つのか。
 - ・理工系としての情報学部が躍進し、文系としての経営学部が情報教育に積極的に取り組んでいるとき、経営情報学部の特色をどう打ち立てるか。
- 「高校」
- ・受験体制に巻き込まれた高校教育のゆがみから来る基礎学力および勉強意欲の大きなバラツキにどう対処するか。
 - ・高校50分授業から大学90分授業への長時間の持続力をどう維持するか。
- 「社会」
- ・社会における映像文化の圧倒的影響力と教室における伝統的活字文化をどうバランスさせるか。
 - ・アルバイトへの過度ののめり込みをどう予防するか。

企画の方向づけ

- 「理念」
- ・新カリキュラムを大学改革の一環として位置づける
 - ・複数教員の持ち回りにより、この科目を年度毎に改善を加えていく。
 - ・学部および大学の最大限の協力を確保する。
- 「方法」
- ・学習の原則に依拠する。
 - ・学生のコミットメントを引き出す仕掛けを組込む。
 - ・教員の熱意を、パフォーマンスを通して伝える。
 - ・映像教材の効果的な導入を考える。
- ★学習の原則
- | | |
|-------------|------------|
| (1)自発・創造の原則 | (2)興味の原則 |
| (3)個性化の原則 | (4)直接経験の原則 |
| (5)活動の原則 | (6)社会化の原則 |
| (7)統合の原則 | (8)愛情の原則 |
- (青木武一『企業内教育訓練の方法』ダイヤモンド社、1968年。

1 G 経営情報学入門（必修）

2 単位 1 期 教授 高柳 実 他

授業の主旨

経営情報学科の中で、最も基礎的な共通ベースを担う科目であり、専門科目のA群、B群、C群の相互の関連を理解させる入門科目である。併せて、学習の仕方に関する基礎的な技術を身につける。

授業の目的

「経営情報」の内容を総括的に理解させ、大学の4年間で何を専攻して何を身につけて卒業し、どんな社会人（＝職業・生活）になりたいか、各人なりの方向づけを行い、そのための効果的な学び方が実践できるよう、指導する。

授業計画

複数の教員が分担して授業をリレーする形式で以下の5点について学ぶ。

1. 情報化時代とは

人間にとって情報とは何なのか、を技術進歩による社会変化の歴史を通じて解説し、現在の社会でのコンピュータと通信技術の浸透を実例を中心に総括し、近未来には、どんな社会に変貌するのだろうか、を予想して、学習意欲を喚起する。（1週～2週）〔担当責任：嘉味田〕

2. 大学で学ぶための技術

大学で知的情報を効果的に収集し、蓄積し、加工し、身につけた上でそれを伝達するには、どんな技能が必要なのか。講義ノートの取り方と纏め方。図書館の使い方。実習室などの利用の仕方。レポートの書き方。ワープロ表計算ソフトの利用のメリット。討論、発表の仕方。などを指導する。（5週～7週）〔担当責任：嘉味田、高柳、吉田〕

3. 企業経営とは

企業とは何か、その使命、目的、目標、組織、機能、業務の一般的な概論から始めて、経営管理、会計・簿記、商法などの概略と相互の関連を学び、それらの専門科目と担当教員を紹介する。（8週～10週）〔担当責任：小沼〕

4. 情報と情報科学とは

情報を「人・物・金」と並ぶ重要な企業資産と捉える立場から、経営情報の情報とは何かを、情報の形態、媒体、処理と伝達の理論、方法論、応用例を学ぶ。情報科学、ソフトウェア工学、人工知能などの一部にも触れる。

更に、経営戦略と経営活動の効率化、高度化による顧客の満足度の向上のために、情報システムを企業内で構築する方法論を概説する。

これらに関する専門科目と担当教員を紹介する。（11週～13週）〔担当責任：竹下〕

5. 実社会へのランディングにそなえて

企業内では、どのような業務があり、どのようにコンピュータ化されるかを、小規模なシステム開発を実習して理解する。

或いは、実社会で活躍している卒業生を各分野から招いて、職業生活の実態について体験談や学生生活への助言を聞くこともある。（3週～4週）〔担当責任：嘉味田、高柳〕

評価方法

成績評価は授業への参加状況（出席および授業中の態度、質問、発表等）を40％、レポートを60％、を目安にして総合して行う。なお期末テストは行わない。

遅刻者

[illegible]

『経営情報学入門』

- 第2回授業 4月27日(木)13:30は必ず課題をすませて出席すること。
(課題:別冊子を読んで左端に質問番号を書き,回答に当る部分に下線を引く)
- 第1回に欠席した人は,水曜日PSHに,嘉味田研究室(21号館6階)に来ること。

「経営情報学入門」

—「学部の先生と担当授業紹介」—

2215教室に少々早めにお出で下さい。

月 日(木)

13:30		14:00		14:30		15:00
						感想 メモ
13:35		14:15		14:35		14:55

魅力あるキャンパスづくりへ向けて

—魅力ある教授陣, 魅力ある授業群—

平成 7 年 5 月 24 日

殿

中部大学 経営情報学部
学部長 高柳 実
学科主任 吉田 年雄
科目主任 嘉味田朝功

拝啓

貴社ますますご発展のことを喜び申し上げます。

さて、中部大学経営情報学部におきましては、学部創設以来、社会に役立つ人材の養成に鋭意努力して参りましたが、急激な社会の変化に対応すべく、今年度よりカリキュラムの全面的改訂を実施致しました。これに伴い、「経営情報学入門」という新入生向けの必修科目を設けて、別紙のようなプログラムで進めております。この中で、「先輩の話」という時間を設け、新入生の、これからの学生生活の送り方や将来の進路選択の参考にしてもらおうと、卒業生を 4 人ほど招き、学生時代のことや、会社生活のことなどを話し合ってもらうことを計画しております。

つきましては、貴社に勤務しております卒業生の _____ さんにパネラーとしてご協力いただきたく、はなはだ勝手なお願いで恐縮でございますが、

6 月 29 日 (木) 13:30-15:00

後輩のために、中部大学までお越し頂けますよう、仕事面でご配慮下さることを伏してお願ひ申し上げる次第でございます。

まずは、ご依頼まで。

敬具

「経営情報学入門」：「先輩の話」のパネラーの皆さんへ

嘉味田朝功

この科目は、平成7年度から設けられた新しい科目です。一年生(312人)を対象にした2単位の必修科目で、毎週木曜日3コマ目(13:30-15:00)、2215教室で行われ、前期完結の授業です。

この科目のねらいは、別紙プログラムをご覧になればお分かりの通り、高校を出たばかりの人達に、「経営情報学」の全体的なイメージを掴んでもらうと同時に、建学の精神や勉学の仕方や大学施設の利用の仕方などを伝え、大学生活を有意義に過ごせるように方向づけることです。

このねらいに沿って、「先輩の話」の時間では、皆さんが、①大学時代を実際にどう過ごし、②今、実社会でどんな会社生活を送っているかについて、お話いただき、一年生がこれからの自分の行動を考える際の参考にしてもらおうと言うわけです。

当日の授業の進め方については、次のように考えています。

- ・先輩4人と嘉味田が壇上に並んで腰掛ける。
- ・嘉味田が主旨説明およびパネラーの卒業年度と名前を紹介し、引き続き、以下の項目について順次質問する。
- ・項目毎にパネラーが順番に、考え方や意見、体験した事実などを話す。

A. 大学時代の過ごし方(2分×4人×5項目=40分)

1. 授業について 考え方、勉強の仕方、ゼミ、卒研のことなど。
2. クラブ活動について 所属、活動状況、よかったこと、つらかったことなど
3. アルバイトについて 種類(仕事の内容)、時間、良かった点、悪かった点
4. レジャーその他 休暇や休日の過ごし方など
5. 今振り返ってみて、やっておけばよかったと心残りに思うこと。もしあれば。

B. 職業生活の状況(9分×4人=36分)

- ・自社の紹介
- ・就職のことは、何時頃から考え始めたか。
- ・会社を選ぶに当たって、どんな点を重視したか。
- ・入社以来どんな仕事をしてきたか。
- ・今、どんな仕事をしているか。
- ・仕事を進めていく上で難しいと感じることはどんな事か。
- ・会社生活で楽しいと感じることはどんな事か。
- ・職業人として心掛けねばならぬ大事なことは何だと思うか。
- ・休日はどんなことをして過ごすか。

C. 先輩として1年生に助言をひとこと(1分×4人=4分)

(40分+36分+4分=80分)

「経営情報学入門」：「学部先生と担当授業の紹介」

－主旨説明とお願い－

嘉味田朝功

A. 他者による教員の紹介（3分）

ねらい：教員と学生との間の、社会的・心理的距離を縮め、キャンパス内に親密感のある雰囲気をつくる。

そのために・教職（機能）を離れた人間的側面にふれる。

たとえば，“中部大学 教職員”のその他の欄をふくらます。

- ・人生観，教育観，モットーなど。
- ・これまでにやって来たこと（キャリアや業績。学歴はふれない。）
- ・めざしているライフワークや将来への夢など。
- ・その他何なりと。

お願い：お忙しいところ，まことに恐縮ですが，ペアの2人が時間をさいてお会いになり，お互いに紹介する内容（3分位です）をめぐるって，話し合っておいて下さい。

B. 自己による担当科目の紹介（7分）－シラバスの口頭版

ねらい：学生に，この大学，学部で，多種多様なことが学べる機会が用意されていることを知らせ，知的好奇心を高め，勉学的期待感を起こさせ，自分に合った進路選択を考えるのに役立ててもらい，もってアイデンティティの醸成につなげる。

そのために：未だ学問的下地のできていない彼ら・彼女らが，聞いていてイメージが描けるように，

- ・専門用語をかみくだいて，
- ・具体例なども混えながら，
- ・他の科目との関連にもふれ，
- ・この科目の特徴や魅力などを語る。
- ・また，授業の方針や進め方にもふれる。

C. 進め方

- ・2人がペアになって壇上に立つ。
- ・どちらかが相手を紹介し（3分），脇に下がって控えている。
- ・紹介された人が自分の担当科目を紹介する（7分）。
- ・再び2人が並んで，役割を交代する。

D. 備考

- ・学生は“中部大学教職員”を参照し，“作業ノート”にメモを取りながら聞く。
- ・教員は，学生がメモを取りやすいように，ゆっくり，はっきり話す。

魅力あるキャンパスづくりへ向けて－魅力ある教授陣，魅力ある授業群

授 業 評 価 設 問

1. 教員の言葉は聞きとり易いものでしたか。
2. 教員は学生に語りかける態度でしたか。
3. 教員は十分に準備し、意欲的でしたか。
4.
 - i 教員の板書はわかり易いものでしたか。
 - ii プリント、OHPなど補助手段は有効でしたか。
 - iii 宿題や演習が講義の理解を助けてましたか。
5. シラバス若しくは講義要項と講義内容は大体一致していましたか。
6. 講義の時間配分は適切と思われましたか。
7. 講義の全般についてよく理解できましたか。
8. 講義によって、次の段階や関連分野への興味をそそられましたか。
9. 総合的に判断し、良い講義だったと思いますか。
10. 教員と講義以外の場でも接触したいと思いますか。

評 価 A 強くそう思う B そう思う C どちらとも言えない
 D そう思わない E 全くそう思わない

講義科目 科目名=経営情報学入門 時間割=木5-06 時間割コード=木149

評価 設問	A		B		C		D		E		無回答		計	平均
	人 数	%	人 数	%	人 数	%	人 数	%	人 数	%	人 数	%	人 数	ポイント
1	25	8.4	121	40.7	97	32.7	36	12.1	16	5.4	2	0.7	297	3.349
2	21	7.1	124	41.8	116	39.1	24	8.1	11	3.7	1	0.3	297	3.405
3	67	22.6	160	53.9	54	18.2	11	3.7	4	1.3	1	0.3	297	3.929
4	29	9.8	113	38.0	108	36.4	35	11.8	11	3.7	1	0.3	297	3.385
5	25	8.4	123	41.4	119	40.1	24	8.1	5	1.7	1	0.3	297	3.470
6	13	4.4	107	36.0	107	36.0	45	15.2	23	7.7	2	0.7	297	3.142
7	14	4.7	114	38.4	120	40.4	32	10.8	13	4.4	4	1.3	297	3.287
8	15	5.1	78	26.3	133	44.8	42	14.1	25	8.4	4	1.3	297	3.055
9	23	7.7	123	41.4	99	33.3	33	11.1	16	5.4	3	1.0	297	3.354
10	21	7.1	78	26.3	128	43.1	34	11.4	25	8.4	11	3.7	297	3.126
累計	253	8.5	1141	38.4	1081	36.4	316	10.6	149	5.0	30	1.0	2970	3.351
11	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	297	100.0	297	0.000
12	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	297	100.0	297	0.000
13	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	297	100.0	297	0.000
14	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	297	100.0	297	0.000
15	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	297	100.0	297	0.000
累計		0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1485	100.0	1485	0.000

平均ポイント算出方法

$$\text{平均ポイント} = \frac{5 \times \text{Aの人数} + 4 \times \text{Bの人数} + 3 \times \text{Cの人数} + 2 \times \text{Dの人数} + 1 \times \text{Eの人数}}{\text{各評価の人数の合計}}$$

参考資料

平成7年度前期 授業評価の平均値

総合計

評価 設問	A		B		C		D		E		無回答		計	平均
	人 数	%	人 数	%	人 数	%	人 数	%	人 数	%	人 数	%	人 数	ポイント
1	2638	20.5	5841	45.3	2443	18.9	1485	11.5	468	3.6	17	0.1	12892	3.675
2	2481	19.2	5722	44.4	3135	24.3	1136	8.8	397	3.1	21	0.2	12892	3.680
3	2758	21.4	6250	48.5	3031	23.5	594	4.6	234	1.8	25	0.2	12892	3.832
4	1664	12.9	5018	38.9	4080	31.6	1527	11.8	567	4.4	36	0.3	12892	3.442
5	1185	9.2	6225	48.3	4731	36.7	439	3.4	171	1.3	141	1.1	12892	3.613
6	1467	11.4	6188	48.0	3561	27.6	1265	9.8	360	2.8	51	0.4	12892	3.556
7	849	6.6	4313	33.5	4663	36.2	2233	17.3	800	6.2	34	0.3	12892	3.169
8	1123	8.7	3584	27.8	4966	38.5	2236	17.3	950	7.4	33	0.3	12892	3.132
9	1773	13.8	5599	43.4	3771	29.3	1197	9.3	519	4.0	33	0.3	12892	3.537
10	1266	9.8	3302	25.6	5136	39.8	1806	14.0	1216	9.4	166	1.3	12892	3.125
累計	17204	13.3	52042	40.4	39517	30.7	13919	10.8	5682	4.4	557	0.4	128920	3.477

教室全体（学生および教職員）の総体的な雰囲気をどう感じましたか。（数字を○で囲む）

	そのとおり		どちらともいえない		まったくちがう		
	A	B	C	D	E		
I. みんな授業に意欲的に取り組んでいた。	5 10人 (3.4%)	4 47 (16.1)	3 153 (52.4)	2 53 (18.1)	1 29 (9.9)	1	総計 293人
II. 授業内容はためになった。	5 28 (9.6)	4 122 (41.8)	3 94 (32.2)	2 33 (11.3)	1 15 (5.1)	1	
III. みんな能力を発揮していた。	5 7 (2.4)	4 38 (13.0)	3 155 (53.1)	2 69 (23.6)	1 23 (7.9)	1	
IV. 教室内の人間関係は協力的であった。	5 21 (7.2)	4 77 (26.4)	3 130 (44.5)	2 46 (15.8)	1 18 (6.2)	1	
V. みんな授業の進め方に納得していた。	5 10 (3.4)	4 36 (12.3)	3 149 (51.0)	2 70 (24.0)	1 27 (9.3)	1	
VI. 総じて授業は面白かった。	5 12 (4.1)	4 55 (18.8)	3 133 (45.6)	2 59 (20.2)	1 33 (11.3)		

今後のためにテーマについてご意見をお聞かせ下さい。（番号の左に印を付ける）

		◎	+	○	-	×	290人
○そのままよい	1. 「経営情報学」関係	14	32	173	39	32	
×なくてもよい	(冊子, 新聞, ビデオ)						
-時間を短くした方がよい	2. 勉学の仕方	17	12	184	41	36	
+時間を長くした方がよい	3. 大学施設の使い方	11	14	180	56	29	
◎新しく加えた方がよい	4. 学部教員と授業の紹介	11	18	100	117	44	
	5. 学長の話	1	17	166	68	38	
	6. 先輩の話	6	43	151	27	62	
	◎ 7.						
	◎ 8.						

その他改善した方がよいと思うことがあればお聞かせ下さい。

学生による授業評価——自由記述

- ・もっと経営学を!
 - ・経営情報学部をはじめとする大学施設の紹介ばかりが重視されているような感じがしたので、もっと「経営情報学とは何か」ということを追求してほしい。
 - ・授業とかの紹介をもっとくわしくやった方がいいと思う。
 - ・大学生がより充実したものにするためにいろんな方の話を聞かせてほしいと思う。また、今後もこの授業は続けてほしい。
 - ・全体にホームルームのような感じだったのでそれを変えた方がいい。
 - ・教員の個人的な紹介や趣味などは必要ないと思います。
 - ・担当の紹介は一気にした方がよい。
-
- ・よかったと思います。
 - ・授業内容に改善の余地なし。
 - ・特になし。(＋7人)
-
- ・寝ている人を起こす。
 - ・むだごとを話している人達をなんとかして欲しい。
 - ・授業中、うるさいせいとも思うけど、たまによく聞きとれないことがあるので、それについてなにか考えた方がいいと思う。
-
- ・作業ノートを作らず、生徒の自主的にまかせる。
 - ・メモとりながら理解するのは大変だと思うので、もっとゆっくり話してほしい。
-
- ・もうすこし書きやすいレポートがよかった。
 - ・映像を使って見たことをレポートにするのはよくない。見にくいし、聞き取りにくい。
 - ・プリントを理解する時間を短くしてテストをやるのは問題がある。先生の話し方が分かりにくい時もある。
-
- ・時間を短くしてほしい。
 - ・時間の都合で、中途半端になる授業だけはやめた方がいいと思います。
 - ・時間をきっちり決めてやってほしかったです。
 - ・時間は守ろう。延長は許せない。この次の講義をとっている人だっている。
-
- ・話が長い。
 - ・学長、授業の話しが長すぎる。
 - ・先生の紹介の時間にむらがある。
 - ・各先生ごとの話をきっちり時間配分してもらい、話の短くなる先生がいないようにしてほしい。
 - ・先生方の紹介が分かりにくい面があったので、どうにかするとういと思う。
 - ・教員説明のとき、ほとんど説明になっていない人もいるのでわかりにくい。
 - ・先生によってききとりにくい先生がいた。
 - ・教員の話は脱線が多く無意味である。

- ・教授どうしが仲が悪いのがありあり感じられた。
- ・マイクをつけたまま雑談をしないでほしい。
- ・先生の人数をへらしたらいいと思う。
- ・5人は多すぎる。3人が良い。
- ・年寄りを排除し若い人材と若い女性を。
- ・さむすぎる。
- ・時間によって寒い時と暖かい時があったのでそれをなんとかしてほしい。
- ・白板が見にくいのでもっとふといマジックかなんかで書いて欲しい。
- ・2215教室の黒板に板書したとき、字が見えない。よめない。教員紹介のとき、名前ははっきり繰り返してほしい。
- ・字を大きくはっきり書いてほしい。後ろの方だととてもみにくい。しかも反射する。
- ・OHPがすごく見にくく、黒板が全く見えない。
- ・ビデオをいちばん後ろでも充分見えるようにしてほしい。
- ・字がとても見にくい。ビデオの時なんかは、字幕が見えなかったのも、とても苦勞した。
- ・場所によって見にくい。
- ・この教室の照明は最悪だ。早く変えろ。後列の人が見にくいと思う。

担当教員による評価

- ・座席は同じ場所でなく、ローテーションした方がよい。
- ・もりたくさん。つめこまれた感じ。時間がなくて、課題がやり切れなかった。
- ・特定の先生に負担がかかり過ぎたので、ルーチン化を考える必要がある。その際申し合わせをキチット。
- ・長続きさせるために、省力化が必要。時間の軽減。毎回は大変。
- ・メッセージ、意図はよいが、どの位吸収したか疑問。理想に学生はついてこなかったのでは。ノートの取り方、講義と修得との間にギャップがある。学生の読書能力は意外とない。
- ・「経営情報学入門」は何をやらねばならぬか、わかっていない。必要性を早めに意識づける。
- ・レポート……身につくような方向で、スライド、模範例を渡す。
- ・マナーが悪い。聴く態度を身につけさせる。真中以降、あまえ。居眠り、私語。